

(1) 研究テーマ (案)

魅力ある教育実践への挑戦 - “学び合い” から生きる力を育む教室づくり -

(2) 研究テーマ設定の理由

「学校の授業」という言葉を聞くと、教師が黒板の前に立ち、座っている生徒に対して、教科書の内容を教える姿を想起する。このような授業スタイルは、多くの生徒に知識や技能を一律に伝達する場合に適しており、1 学級に 30～40 人の生徒が在籍する日本においては、もっとも基本的で一般的な型といえる。

ところが一斉授業では、多くの生徒はいわゆる「お客さん」になりがちであり、教師の話を受動的に聞くだけになってしまう危険性をはらんでいる。また、生徒が静かに座っていれば、私たち教師は何となく自分の話が浸透したような手応えを感じて、満足してしまうこともある。

もっと生徒が主体的に取り組み、学習する楽しさや喜びを実感できるような授業、そして学習内容がしっかりと定着するような授業をめざしたいと考える。

目指す教室の姿 → 全員の学び・質の高まり・つながる喜び

(3) 「学校教育目標より」

■ 粟津中学校校訓…自主・自律・自由

■ 教育目標 「心豊かでたくましい生徒の育成」 知・徳・体の調和

知… 学びとる	確かな学力と学ぶ意欲を持った生徒 学び合う集団を大切にする生徒
徳… 思いやる	豊かな心を持ち、「命」や「もの」を大切にする生徒 社会のために自ら実践する生徒
体… やり抜く	健康でたくましさを持った生徒 「やれば出来る」を合い言葉に切磋琢磨する生徒

◎ 教育実践の重点 ◎

※ 創意ある教育課程の編成と実施

教育の質的向上… わかる・できる授業をめざしてグループ学習を取り入れるなど

指導方法の改善と指導体制の工夫

- 授業時数の確保と家庭学習の定着にむけての仕掛け作り
- 学習規範の徹底… 学習権の保障と授業の受け方のルールづくり
- 朝読書の実践による学力向上と落ち着いた雰囲気づくり
- 体験的な学習の充実により、意欲や自信を育てる
- 主体的に進路を選択する能力や態度の育成
- 将来を見据えた進路指導 (的確な進路情報の収集)
- 国際理解教育, 情報教育, 環境教育など今日的課題に取り組む

↓

めざす生徒像

○ 学ぼうとする意欲を持つ生徒

○ 学び合う集団を大切にする生徒

↑ ↑ ↑

生徒が本当に「わかった, できた!」と実感できる授業づくり

↑ ↑ ↑

生徒同士が教え合い, 学び合える授業づくり

↑ ↑ ↑

教材・教具や学習形態の工夫

↑ ↑ ↑

教師の役割を見直す
「聴く」「つなぐ」「もどす」

(3) なぜ「学び合い」の授業なのか

本校では、「4人グループ」や「コの字」型の座席を積極的に取り入れて、「学び合い」のある授業づくりを図ろうとしている。なぜ「学び合い」の授業が必要なのか。その理由は主に以下の5点である。

①生徒1人あたりの発言が増える。(主体的な授業参加)

教師の話をもっと聞いているのではなく、グループ単位あるいは学級全体での話し合いをしながら進める授業であるため、生徒が発言する回数が増える。より主体的、積極的に授業に参加する姿が期待できる。

②考える習慣が付く。(思考力)

何もかも教師から説明を受けるのではなく、設問や課題に対して自分たちで答えを導き出そうとする活動が増える。そのため「覚える力」よりも「考える力」が鍛えられる。

「覚えた知識」は条件や場面が変わると対応しにくい、「考える力」は応用が利く。

③論理的に説明しようとする力が付く。(表現力)

友達に意見を述べて相手を納得させるためには、何をどのように説明すれば相手に伝わるか、論理的な話し方をする必要がある。自分は論理的に説明できない場合でも、友達の話し方を参考にして、自分の話し方を見直すことができる。

④多面的に理解できる。(知識の深化・補強)

お互いに自分の意見を述べ合ったり、教え合ったりする中で、生徒は別の見方に気付いたり、自分の認識を他の角度から確かめたりできる。お互いの意見を聞いて、驚いたり、納得したりしながら、理解を深めていくことは、友達同士、あるいは学級全員の力で、いわば知識を構成していく活動といえる。

⑤他者理解が深まる。(コミュニケーション力)

他の友達の意見を聞いて、自分以外の立場や考え方があることに気付き、他者理解が深まる。ひいては他の人の考えを尊重できるようになり、コミュニケーション力が高まる

(4) 研究の重点

①教師の役割の見直し(生徒に考えさせる、気付かせるために)

「教える」→「聴く」…生徒の発言を待つ、しっかり聴き取る、意図を捉えながら聴く。

「つなぐ」…生徒の考えを生徒につなぐ、教材につなぐ、つなぐことによって考えさせる習慣を付ける。

「もどす」…新たな問題や疑問を学級全体に戻す、もどすことによって知識を探究する面白さを実感させる。

※「学び合い」を中心に授業を組み立てると、時間を要する。授業の中のどの場面で、何を考えさせるのかを明確にする。

②授業の工夫

- ・ 教師の言葉を減らす。声のトーンを抑え、授業のテンションを落とす。
- ・ 教室を活性化させる課題の設定
→基礎の課題とジャンプの課題
- ・ 実物を持ち込む
- ・ 適切な作業を取り入れる
- ・ 視聴覚機器(テレビ)等の活用

授業のユニバーサルデザイン

＜誰にもわかりやすく、安心して参加できる教育環境を作る＞
環境の工夫 ルールの明確化
視覚的な支援
発問や説明の工夫
認め合う場の設定

特別支援教育の視点を全ての生徒の指導に生かす

【具体的な取り組み(案)】

- ・ 4月に新転任者を中心に、研究テーマについての説明会を実施する。
- ・ 各教室に「学び合い」に関する掲示物
- ・ 年間を通して職員授業参観週間(月間)の実施をする。
- ・ 研究会の「実践交流」では、“学び合い”の展開についての事例を発表し合う。
- ・ 学年部会でも「学び合いの授業」についての議題を取り上げ話し合う
- ・ 教科部会で、各自の教材の交流
- ・ 先進校などの公開授業に参加
- ・ 推進委員会より通信で発信していく

(5) 研究推進の方法

①全体研究会 学期 3回＋夏休み 1回

1学期	6 / 10	2年担当	5時間目：全員の公開授業、6時間目：1教科の公開授業
		3年担当	ヒット授業、工夫した授業の実践報告（紙面にて）
2学期	10 / 28	3年担当	5時間目：全員の公開授業、6時間目：1教科の公開授業
		1年担当	ヒット授業、工夫した授業の実践報告（紙面にて）
3学期	1 / 21	1年担当	5時間目：全員の公開授業、6時間目：1教科の公開授業
		2年担当	ヒット授業、工夫した授業の実践報告（紙面にて）

※全員で1つの授業を参観することを原則にする。

※教師の授業方法よりも生徒の活動の様子に目を向けて、生徒理解に努める。

※指導案は略案程度（A4、1枚）のものを準備する。書式は研究推進部で準備。

（「授業のデザイン」「ヒット授業案」）

■公開研究授業の担当について

【参考】近年の研究授業実績

	1学期	2学期	3学期
H21年度	数学：西田・東	社会：武田	音楽：島田
H22年度	家庭：中嶋	社会：吉森	社会：西本
H23年度	理科：鷲	音楽：中村	数学：中村
H24年度	英語：三浦	英語：窪田・田村	理科：小幡
H25年度	理科：石川	保体：鈴木・平畑	数学：西田
H26年度	国語：川畑	国語：平松	英語：田中

②保護者の授業参観

・「学び合い」の研究内容で授業を行う

③職員研修

・各種研究会，研究大会への積極的な参加→案内文書を回覧します。

・先進校：応時中などへの研究視察

④授業を撮影したビデオの視聴

(6) 年間計画

月	活動内容
4	研究推進委員会（年間計画の立案） 授業参観ウィーク 職員会議（研究主題とねらいの確認）
5	授業参観ウィーク 研究推進委員会（研究内容を検討）
6	研究推進委員会（研究内容を検討） 授業参観ウィーク 6/10(水) 第1回全体研究会を開催（講師・倉知雪春先生を招いて） 研究先進校視察
7	研究推進委員会（研究内容を検討） 1学期の反省と課題
8	8 / 26 第2回全体研究会を開催：「 」 「 」
9	研究推進委員会 実践授業の公開
10	研究推進委員会 授業参観ウィーク 10/28 第3回全体研究会を開催（講師・倉知雪春先生を招いて）
11	研究推進委員会 授業参観ウィーク 研究先進校視察
12	研究推進委員会（2学期の反省と課題・3学期の計画）
1	研究推進委員会 授業参観ウィーク 1/21 第4回全体研究会を開催（講師・倉知雪春先生を招いて）
2	研究推進委員会（研究のまとめ）
3	研究推進委員会（1年間の反省と次年度への課題）